

介護老人福祉施設 田子のまち 2025 年度事業報告

はじめに

昨年度も職場づくりに力を注いだ年でした。「ありがとうを言葉で伝えよう」という施設スローガンもみんなで考え、職員間で感謝の気持ちを伝えあうことで、お互いを思いやる気持ちがユニット内環境改善につながることを実感しました。実際にユニット会議で職員同士の「ありがとう報告」を実践しており、この取り組みは来年度、ユニット・各部署でもやろうと決まりました。

人材確保・育成・定着については、この間ずっと課題となっています。入職希望の方には、入職してから「思っていたのと違う」とならないよう、施設の理念・目指すケア・全体の雰囲気などを具体的に丁寧に伝えるよう努めました。介護実習生の受け入れも継続し、その中で、職員が自身のケアの根拠を再認識し、成長につながっています。また、施設内研修以外でも学ぶ機会を増やし、外部研修への参加も積極的に行いました。

人材不足の中でも、施設理念である「二度とないこの瞬間をあなたらしく輝ける場所に」を実現するために、職員一丸となり、日々のケアに取り組んできました。この1年で16名お看取りを経験し、ほとんどの方が田子のまちで最期を迎えました。人生の最期に関わり、自分だったらどう過ごしたいか深く考えさせられ、私たちも成長させてもらっていると感じることが多かったと思います。また、ご家族から感謝の言葉を多くいただき、それは私たちのケアの評価だと感じています。これからも、入居者様・ご家族が安心して、笑顔で過ごせる日々を大切に、施設理念を中心とした質の高いケアの提供を追究していきたいと思います。

田子のまちも開所から13年となり、建物の修繕や家電の買い替えが多くなってきました。法人介護事業の重点課題でもある「経営改善」ですが、稼働目標を達成し介護報酬は安定しても、想定していなかった出費が増え、経営面でかなり影響を受けました。今後もますます経費は増えていくだろうと予想し、予算に反映していきたいと思います。

来年度も、職員が安心して働き続けられる環境づくりと仕事にやりがいを感じられる職場づくりの両立を重視し、職員全員が稼働を意識した、一丸となった経営を目指していきます。そして、介護職員の処遇改善を実現するための学習や署名活動の取り組みも強めていきたいと思っています。

【2025 年度実績】

・長期入居

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延数	2400	2480	2400	2480	2480	2400	2480	2400	2480	2480	2240	2480	29200
実数	2333	2413	2353	2423	2421	2316	2395	2299	2415	2394	2196	2369	28327
稼働	97.2	97.2	98	97.7	97.6	96.5	96.5	95.7	97.3	96.5	98	95.5	97
平均介	3.9	3.9	3.9	3.8	3.9	3.8	3.9	3.9	3.8	3.9	3.8	3.9	3.86

・短期入所

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延数	600	620	600	620	620	600	620	600	620	620	560	620	7300
実数	411	403	399	448	469	444	486	467	493	497	457	543	5517
稼働	68.5	65.0	66.5	72.2	75.6	74.0	78.3	77.8	79.5	80.1	81.6	87.5	75.5
平均介	2.8	2.7	2.8	3.4	2.9	2.9	3.2	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2	3.0

I 長期部門

【長期相談員】

2025 年度総括

今年度は、目標稼働 97%を達成することが出来ました。ユニットでも稼働を意識して受け入れに積極的になっていると感じる場面が多く、相談員としても、やりがいある 1 年になりました。しかし、退居から入居までを 3 週間以内掲げていましたが、遠方からの入居や体調不良等の理由により、それ以上空いてしまうことも多々ありました。お看取りの方も増え、退居が続いてしまうと、入居準備が滞ってしまい、スムーズに進まないこともありました。

毎年行っている意向調査では、他の施設が決まったり、お亡くなりになっていたり、取り下げされる方が多くいました。もっと、意向確認の頻度を高くして、必要としている方が入居できるよう、リストの管理を行っていききたいと思います。

現在では、ショートステイ利用で長期希望の方が増えています。しかし、転倒リスクが高い方がほとんどで、対応が十分にできるユニットを考慮しすすめていくとなると、なかなか時間を要してしまうのが現状です。慎重に進めつつも、ショートステイ稼働にも意識し、長期への意向を検討していききたいと思います。そのための情報収集やケア方法を一緒に検討

していくことも相談員として必須であると考えます。

相談員は、家族が最初に施設に見学に来て対応する顔だと思います。施設の印象を決めかねません。丁寧な対応を常に心がけ、田子のまちを選んでいただけるよう取り組んでいきたいと思います。

2025 年度取り組み

- ① 入居の相談や申し込みがあった場合は、なるべく細かく状況（本人の状態、ご家族の状況や思い・要望 等）を聞き取り、相談員同士で情報を共有しました。
- ② 年 15 回入居判定委員会を開催しました。実調後はなるべく早く開催するようにしました。
- ③ 入居待機者の意向調査を行いました。
- ④ 宮城野の里、十符風の音相談員と情報共有し、入居につなげました。

【要介護度別】※3 月末時

要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
1 名	1 名	23 名	38 名	17 名

【保険者別】※3 月末時

宮城野区	若林区	青葉区	—	—	—
53 名	3 名	1 名	—	—	—
多賀城市	塩釜市	七ヶ浜町	岩沼市	柴田町	利府町
10 名	3 名	0 名	1 名	1 名	2 名
松島町	東松島市	福島市	浪江町	大館市	上越市
1 名	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名

【性別・平均年齢】※3 月末時

	人数	平均年齢(3 月末時)	最少年齢	最高年齢
男性	14	84.9	73	101
女性	66	87.8	69	102
計	80	87.3	—	—

【入退居状況】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入居	3 名	1 名	2 名	1 名	1 名	1 名	2 名	2 名	0 名	2 名	1 名	1 名
退居	2 名	2 名	0 名	3 名	0 名	1 名	3 名	0 名	3 名	1 名	0 名	1 名

【施設ケアマネジャー】

2025 年度総括

今年度は 24 時間シートの中でケアマネジャーから状況を確認する欄を設け、さらに個別的な詳細情報を共有できるように変更しています。それにより、標準項目に必要な情報もより収集できるようにしケアマネジメントにおいても深めていく意識が出来ました。

また 24 時間シートやご本人、ご家族から聞き取ったご意向をもとに自宅に帰ること、会いたいご家族に会いに行くという思いを多職種で考え、ご家族の協力も得ながら協力して叶える事が出来ました。施設理念にもある「二度とないこの瞬間を“あなたらしく”輝ける場所に」を実現できるようお看取りケアに移行したからではなく、その思いをその時に叶えられるようにチームを繋げる存在でもありたいと思います。その思いをタイムリーに実現していくためにも「願いを叶えましょうシート」の活用が課題と感じています。その方のその瞬間の思いをチームで共有し実現していくために必要なツールである事を再確認し、来年度は「願いを叶えましょうシート」を意識して活用できるように検討していきたいです。

今年度は相談員、ケアマネジャーの体制も変更がありました。福祉用具の調整や退院調整、ご家族連絡は相談員とも情報共有し協力して行うことができる体制となっています。今後も相談員や各専門職とも情報共有や連携を図ることで、入居者様の生活を支えられるように取り組んでいきたいと思っています。

各研修会への参加について、資格の更新研修に留まってしまったことが課題です。来年度は自分たちのスキルアップのためにも積極的に各種研修会に参加し、視野を広げられるようにしていきたいです。

2025 年度取り組み

- ① 認定更新について仙台市 12 名、多賀城市 3 名、塩釜市 2 名、松島町 1 名、七ヶ浜町 1 名、大館市 1 名、福島市 1 名の申請を行い、仙台市 12 名、大館市 1 名分の認定調査を行いました。
- ② 定例のサービス担当者会議以外（新規入居、本プラン移行、退院、看取り移行等）の担当者会議は 51 件開催し、うちご家族の参加は 32 件でした。
- ③ 4 月にケアマネジャー主催で看取りの学習会を開催しました。
- ④ 月に 1 度程度ケアマネ会議を開催し相談員と情報共有し連携を図りながらご家族支援や退院調整、福祉用具の管理・調整を行いました。退院調整と福祉用具調整については相談員、ケアマネジャーともに行えるようになったことで協力して業務量の調整が行えるようになりました。

【春風】

2025 年度総括

今年度は、施設のスローガンである「ありがとうを言葉にしよう」という目標を軸として、日常の中でたくさんの「ありがとう」が溢れていた1年でした。入居者様やご家族、また職員同士での感謝の言葉が、互いを支え合っていたように思います。

入居者様の暮らしにおいては、毎月季節に合わせた行事や、協力ユニットと合同で芋煮会を開催するなど、日常の中にいつもとは違った楽しみを増やせたのではないかと思います。また、ご自宅への外出や買い物など、個別でのご希望も実現することが出来ました。

その一方で、直前で叶えることが出来なかった願いや、ご希望があったものの企画に至らなかったものもありました。入居者様にとって、日々の体調の変化は、今日と明日では大きく変化してしまう場合があります。だからこそ、1日1日がとても大切に貴重な時間の連続であることを痛感しました。来年度は、1つでも多くのご希望を叶えることができるよう、ご家族のご協力も頂きながら、迅速に取り組んでいきたいと思います。

職員同士の支え合いにおいては、ユニット内の様々な業務をローテーション制で取り組み、会議の司会や行事、オムツや嗜好品の注文、ご家族へのメールなど、どの職員でもできるようにしました。また、職員それぞれが抱える個々の事情をくみ取りながら、できる部分は率先して行い、できない部分は助け合うことが自然にできていたように思います。「ありがとう」の感謝の言葉が日々交されてはいましたが、毎月ユニット会議の中で、改めて職員同士で伝え合う時間を作ったことで、互いをより認め合えたり、仕事への意欲向上に繋がったりと、気持ちよく働ける環境を持続できたように思います。

来年度も、入居者様やご家族、職員がお互いを大切に思えるような関係や環境を作っているよう、感謝を伝え合いながら力を合わせていこうと思います。

2025 年度取り組み

- ① 毎月季節に合わせた行事の開催や、入居者様の個々のご希望に応じた外出を実施しました。
- ② 毎月のユニット会議で、職員同士「ありがとう」を伝える時間を設け、気持ちよく働ける環境づくりに努めました。
- ③ 入居者様のケアにおいて、状況に合わせて他職種やご家族に相談しながら、随時ケアの検討を行いました。
- ④ ユニットの状況に合わせて、協力ユニットと話し合い、勤務時間や業務の見直しを検討し、円滑な運営に努めました。

【ふたば】

2025 年度総括

今年度は、入居者様のやりたいこと、楽しみが増えるよう取り組みに上げていましたが、実施できたのは、同じ方が多かったです。実施したことを継続的に行えるよう、申し送りを

しても、途中で途絶えてしまし、意識して実施する行動も少なかったのが反省点です。また、実施に向け本人様にお聞きしても行動に移せないこともあり、お聞きする事もできなかったこともあり、もっと実施に向けた計画的な行動が必要だったと思いました。日々の業務の中で、個別に時間を作り、意向を聞けるよう、来年度は早い段階から計画を立てて実施していくことが課題です。

季節の行事は、入居者様の ADL に合わせた促しがうまくできなかったのも、来年度は個々のできることを最大限活かせるようにしていきたいです。

ご家族へ日頃のご様子などは、メールや面会時に報告することができました。相手にどうお話ししたらうまく伝わるか、伝えた後職員間での共有は確認し合いながら行っていました。引き続き、安心してもらえるようにしていきたいです。

職員間では、助けられた時には「ありがとう」と言葉に出して相手に伝えられていて良かったです。互いに気持ちよく仕事ができるよう、改善点があった際はその場で伝える事もできていました。引き続き、来年度もチームでより良いケアや仕事ができるようにしていきたいと思います。

2025 年度取り組み

- ① 月に 1 回ユニット会議を開催し、意見交換を行いケアに繋げました。また、協力ユニットへの情報共有し周知、統一したケアが行えるように働きかけを行いました。
- ② 季節に合わせた設えや行事を入居者様と一緒に行いました。
- ③ ご家族とメールやお電話などで定期的にご様子をお伝えしました。
- ④ 他部署と連携を図りながら、個別に行いたい事を実施しました。
- ⑤ コスト削減を意識し、業務を行いました。

【夏月】

2025 年度総括

入居者様が自分らしく過ごせるよう職員間のコミュニケーションを密にとり、情報を共有することを意識し、ケアに反映させることができました。少しずつ入居者様の好みやこだわり、小さな身体的変化にも気付けるようになってきたと思います。ケアに反映させるために入居者様との普段の関わりがどの位大切なものなのか実感しました。

普段のケアだけで 1 日が終わってしまうということが多かったため、ユニットケアの強みである個別ケアや入居者様にとっての楽しみのある場を作れるように取り組んでいきたいです。また、職員が困った時にこそ助けを求められる関係や雰囲気を引き続き作っていききたいです。

2025 年度取り組み

- ① 入居者様の想いに寄り添ってケアをし、他職種と情報を共有しました。
- ② ユニット会議を定期的に開催し、入居者様一人ひとりの情報の共有をし、ケアの検討をしました。
- ③ 声を掛け合い、互いに働きやすい環境作りをしました。
- ④ ユニット内の設えを見直し、清潔の保持、環境整備をしました。
- ⑤ パットの見直しを定期的に行い、コスト削減に努めました。

【すずか】

2025 年度総括

職員の入れ替えが多く、入居者様の性格や既往などを理解し、対応できるようコミュニケーションを心がけました。看取りの入居者様がいたことで、より個人の生活について考えさせられる期間にもなりました。その一方で、より多くのケアが必要な方、ご要望が多く関わる時間が長い方への対応に当たるため、入居者様と関わる時間が偏ってしまっていたとも思われます。関わる時間を均一にしていくことは難しいかもしれませんが、ユニットの一員と感じていただけるような関わりを模索していきたいです。

入居者様の状態変化によって、人員の必要な時間帯が変わり、ケアのタイムスケジュールを見直しました。しかし、職員同士の声掛け不足や情報の滞りがあり、連携がうまくいかないこともありました。職員同士のコミュニケーションをより深くできるよう、今後は休憩前後の報告や申し送りを徹底していきたいです。

来年度は、行事などの余暇活動にも目を向け、入居者様の楽しみが生まれるように努めます。

2025 年度取り組み

- ① 申し送り表やノートでの情報共有に努め、多職種への連絡・相談で入居者様へのケアに繋がりました。
- ② 面会やお電話でご家族へ状態報告をし、情報が滞らないよう努めました
- ③ 入居者様の状態変化に応じて、協力ユニットと相談し、タイムスケジュールを見直しました。
- ④ 入居者様の生活状況から設えを見直しました。
- ⑤ 節電・物品の無駄遣いを減らすように努めました。

【秋晴】

2025 年度総括

感謝の気持ちを持ち、支えあうユニット作りを目標に、この 1 年は取り組んできました。職員が少なく入れ替わりもあった中で、互いに声掛けし合い、業務に取り組むことができました。

ご家族の面会の際にはその都度様子を報告し、面会の無い場合は、メールで報告することもできました。職員一人一人が節電等の経費削減を意識し、日々取り組むこともできたと思います。職員間のコミュニケーションが取りにくいわけではありませんでしたが、申し送り記入の不足や、情報が口頭での伝達のみの場合もあった為、情報共有不足になった部分がありました。日々の情報をケア記録や申し送りにしっかりと残すことは、ケアの統一に必要なことである為、来年度は改善していきたいです。

また、入居者様お一人お一人と関わる時間がもう少し増えるよう、業務の改善を含めて取り組んでいきたいと思っています。

2025 年度取り組み

- ① 職員同士が声を掛け合い、日々の様子を伝えあう等、コミュニケーションが取りやすい環境になるように努めました。
- ② ご家族にメールや電話、面会時に入居者様の様子を報告しました。
- ③ 月 1 回のユニット会議を開催し、入居者様やユニットの改善点などを話し合いました。普段の業務やケアについて意見交換を行いました。
- ④ オムツやパットの見直しを行い、節電などの経費削減に取り組みました。
- ⑤ 伝達講習の学習会を行い、スキルアップに努めました。

【みのり】

2025 年度総括

今年度は、職員が少ない中でも行事や入居者様の声にこたえて個別の外出を行うことができました。行事は昨年にくらべあまり企画できませんでしたが、協力ユニット合同で夏祭りを盛大に行うことができ、入居者様の笑顔をたくさん見る事ができて良かったです。来年度も協力ユニットで楽しいことができたらいいなと思います。ご家族との関わりでは、面会に来てくださる方が多いので、その都度体調面などお話しし、メールでも最近の様子をお伝えすることができていました。

課題としては、ケア記録の充実です。1 日どんな様子を過ごしていたか、どんなお話をしたか、体調だけではなく、表情や雰囲気も詳しく記録に残していけるようにしたいと思います。大きな出来事はもちろん、小さなことも記録に残せるよう意識していきたいです。それから、一人ひとりの入居者様と十分なコミュニケーションをとる時間がなかったように思います。業務に追われ、特に自分から声をかける事ができない入居者様との時間が少ないと感じました。来年度は、もっと入居者様一人ひとりに寄り添い、耳を傾けていきたいです。

2025 年度取り組み

- ① ユニット会議以外でも疑問に思ったことを話し合える場・雰囲気を作ることができました。そして多職種とも相談することができ、早期解決を心掛けて動くことができました。
- ② チーム内で一人ひとり役割を決め、互いにフォローしながら業務にあたることができました。
ただ、もっと細かな声かけ（自分が何をするか、誰のケアに入るか）をもっと心掛けていきたいです。
- ③ 経費削減・節電を心掛けていましたが、忙しさの中、テレビや電気を消し忘れてしまうことも多かったです。
- ④ 署名活動に積極的に取り組むことができました。

【美冬】

2025 年度総括

入居者様ひとりひとりと関わる時間を持つようにし、やりたいことや、思いを聞くことができました。その反面、思いを聞きできることは対応していましたが、訴えの多い方に対しては深く関わる時間が持てませんでした。入居者様ひとりにとりにもっと丁寧に時間をかけて、思いに寄り添えるようにしていきたいと思います。

職員同士でのコミュニケーションも増え、言いやすい環境が少しずつできてきたように思います。口頭だけでは上手く伝わらないこともあり、申し送りノートなど活用し、文面として残す様にしていきました。協力ユニット間でのコミュニケーション不足を感じることもあり、情報共有がうまくいかない事がありました。職員同士で「ありがとう」が言える環境にしていければと思います。

2025 年度取り組み

- ① 入居者様の状態の変化に応じて、多職種と相談・協力をしながらケアの検討をしました。
- ② 行事の企画をし、協力ユニットで入居者さまが楽しめる事を考えました。
- ③ 入居者様の様子をご家族に定期的に報告をしました。
- ④ ケアの変更点など申し送りノートを活用し、情報の共有をしました。
- ⑤ 職員間で「ありがとう」を伝えるように心がけました。

【こうめ】

2025 年度総括

今年度は、入居者様、ご家族の思いに寄り添い、居心地の良い環境で生活を送れるよう支援していく事を目標にし、実施できたことが多かったと思います。入居者様の思いに寄り添ったケアの実践、ユニット内や他職種との共有をし、連携、継続したケアの実施もできたことが多かったと思います。今後も継続していきたいです。しかし、入居者様のやりたいこと、食べたいものの多くは行動に移せませんでした。一人一人にしっかり時間をかけて寄り添いながらその方の思いを聴く時間も少なかったため、次年度は一人一人にもっと寄り添える時間を作ることが課題です。また、面会に来てくださるご家族にはこまめに情報共有し、ご家族の思いに寄り添うことは少しですが出来ていました。しかし、面会になかなかいらっしゃらないご家族には連絡が不足するように思います。情報共有が足りなかったのが課題です。次年度は月1回ご家族様にメールや連絡で情報共有をして、寄り添い、安心してもらえるようにしていきたいです。

職員同士思いやり、助け合える働きやすい環境づくりに関しては、助け合うことはできましたが、職員不足などで余裕がないとき等、もう少しみんなで思いやりを持てると良いのかなと思うことがありました。また、助け合い「ありがとう」と伝えることは職員間で増えてきたので今後も継続していきたいです。

2025 年度取り組み

- ① 職員間、他職種との情報共有、一人一人に合ったケアの実践もできていたことが多かったです。面会に来られないご家族様への情報共有が不足していたため、次年度は月1回の連絡を目安に情報共有していく事が課題です。
- ② 「ありがとう」の感謝の言葉がユニット間で増えました。小さなことでも相談できる環境が整いました。
- ③ コスト削減を意識したパットの選定ができました。

Ⅱ 短期部門

【短期相談員】

2025 年度総括

今年度は年間 75%の稼働となりました。新規利用者様や、定期の利用者様がぐえ稼働はあげることができています。緊急時の受け入れや、空床案内も行い、居宅介護支援事業所との連携に努めることができました。今後も緊急時の柔軟な受け入れができるようにしていきたいです。

また、緩和ケア病棟からの利用者様の問い合わせもいただくことがあり、医療度の高い方の利用受け入れも行っていますが、今後も看護師と相談し、利用可能かの判断もしっかりと行っていきたいと思います。

そして、前年度よりもロング利用希望者の増加傾向にありました。在宅介護者の負担増や介護者の体調不良が利用希望理由にあげられ、切迫した状況での問い合わせをいただくことも多く、ご家族の負担軽減になるようできる限り受け入れを行うようにしました。

稼働安定につながる一方で、要介護度も4、5の方が増え、認知症自立度も高く、BPSDの症状もある為、職員の見守り負担増加、転倒リスクも高いという現状にあります。相談員としても、空床調整の複雑化や医療機関や居宅、ご家族との連絡調整業務としては前年度より増加しているかと思っています。

新規受け入れもしっかりできるようにすることが課題として挙げられますが、認知症状の強さや家族の施設条件が限定されることにより、ロング利用の方の入居先が決まらないケースが多く、果ショートステイ利用期間の長期化につながっている為、入居申し込み状況の定期的な確認や居宅への問い合わせ等を行っていきたいと思います。

また、今年度は、骨折事故が多くなってしまい、初動対応の大切さを改めて考えさせられました。ご家族、居宅への迅速な連絡、報告を行い、冷静に対応ができるようにし、関係性悪化を防げるようにしていきたいと思います。

事故や、対応困難ケースの対応などありましたが、稼働も順調に上げることができた年度でもある為、今後も誠実な対応を心がけていきたいと思います。

2025 年度取り組み

- ① 緊急時の受け入れを柔軟に行いました。
- ② 宮城野の里、十符風の音相談員との情報共有を行うことができました。
- ③ リーダーとの連携を図り、空床調整を行うことができました。

【花梨】

2025 年度総括

新規・リピーター共に増え徐々に稼働を上げることができた半面、忙しさを理由に忘れ物や申し送り忘れ・質の低下が見られたのも事実です。骨折事故や苦情も何件か寄せられた1年となりました。そんな中でも行事や飾りを季節ごとに取り行うことができました。利用者様がショートステイで快適に楽しく過ごしていただきたいという職員の想いがあったからこそ実現できたものだと感じました。継続すること、課題解決することをはっきりしながら来年度も利用者様に来たいと思っていただけるようなショートステイを目指していきます。

2025 年度取り組み

- ① 協力ユニットを含め、情報共有の最適かつ確実な方法を模索します。
- ② 職員間でのコミュニケーションを図り、勤務中のお互いの動きを確認し合います。
- ③ 稼働率を上げて質は落とさないことを意識しながら業務にあたります。
- ④ 署名活動やカンパ活動への参加を図ります。

【撫子】

2025 年度総括

12 月から撫子が再開し 20 床の受け入れになりました。始めはまだ稼働が低かった為、職員に気持ちの余裕があり利用される利用者様へ笑顔で過ごせる雰囲気を作りながら一人ひとりに合わせた対応をとることができていました。徐々に稼働が増え一人ひとりの要望希望、ご家族の希望が増えるにつれ業務に追われるようになり、利用者様方に寄り添えるケアが難しくなっていました。また職員間のコミュニケーションが薄れ、事故や同様のヒヤリハットが多くなっていたのも余裕が持てなくなっていたことが要因の一つであったと思います。しかし、業務に追われる中で職員一人一人が何とかしなければという意識が強くなりました。職員間のコミュニケーションが増え、利用者様の情報やケアの共通理解ができることで業務に追われながらも協力ユニットショートステイで設えや行事などに取り組み、利用者様に「また来るからね。」「ありがとう。」と言って頂けるようになりました。

これからも、入退所が多い日、入浴者が多い日など業務に追われる日々が続きますが、利用される方のために職員同士のコミュニケーションの大切さを意識し感謝の気持ち「ありがとう。」を言葉に出して、今自分たちが出来ることを話し合い実施していきたいと思います。

2025 年度取り組み

- ① 各自、自分の行動に責任を持ち言動に留意しながらケアを行いました。しかし、職員間のコミュニケーションが不足がちになってしまい理解されない場面も見受けられました。
- ② 笑顔で過ごせる雰囲気を作るためコミュニケーションを図りました。入退所の多い時など状況によってコミュニケーションが不足してしまった時もありました。
- ③ 環境を考慮しながらコストを意識して業務にあたっていました。
- ④ 署名やカンパ活動を積極的に行いました

Ⅲ各部門

【医務】

2025 年度総括

今年度は昨年度から引き続き職員体制が安定していました。ユニット担当制が継続して行え、ユニット会議にも参加し情報共有や相談が行えました。入居者様の状態変化時や看取り期の方の報告も以前より何を伝えたいか、何を報告してほしいのかを共有することで、小さな不安も、思いやりをもって対応し少しずつではありますが解消して多職種と連携して行うことができました。

嘱託医とご家族の面談を必要時に行っていますが、今年度は1年間で約16件ありました。状態の低下や変化に対し、今後の経過や対応をどうしていくか嘱託医の説明を受け、ご家族の意向やご本人の今までの生活や考え方を確認し、面談記録として書面にまとめ、ご家族と嘱託病院とも情報共有することができました。今後も継続して安心な医療の提供が行っていききたいと思います。

2025 年度取り組み

- ① やりたい事が実現できるように、医療的な側面から多職種と連携し検討することができました。
- ② 情報の伝達や共有がスムーズに行える様に、お互いに思いやりをもって行動できました。
- ③ 状態の変化を早期に把握し、安定して生活が送れるように支援しました。
- ④ 研修会への参加はできませんでしたが、医務主催の「学ぼう会」を開催し資料作りや講師として自己研鑽に努めました。

【事務】

2025 年度総括

2025 年度は介護収益が初めて5億円を超えるという当初予算でスタートしました。今年度の目標を「経営を安定させること」を第一の目標に掲げ、常に予算を意識した経営報告を行いました。予算比較から問題点や改善点を洗い出し、職責会議に提案、繰り返し討議を行い意見交換したことで、田子のまちでやるべきことを確認し、同じ目標に向かうことができましたと思います。また、管理者に経営状況について日常的に相談できたことで改善できたことがたくさんありました。郵送回数削減と医療費集金方法を変更は、経費削減と事務業務削減が同時に叶いました。消耗品の使用方法見直し、家電の積極的な買い替えなど、管理者はじめ全職責者との協力がなければ事務職員だけでは進めることができなかったと思います。そして、今年度は今後10年間の必要利益も作成しました。まだ不十分なところもあります

ので、引き続き内容を精査していく予定です。

「共済活動と社会保障運動を推進」という目標については、広報活動を積極的に行うことで、機関紙の行事やプレゼント企画への応募が増えました。数年ぶりに行われたボーリング大会に参加できたことで職員間の親睦を深める良い機会となりました。今後も福利厚生の実現を目指したいと思います。

今年度は選挙も多い年で、所属する委員会の中で選挙推進ニュースを作成し職員へ発信しました。初めての取り組みで職員へ社会情勢に対する意識調査としてシール投票も行いました。また、福祉ウェブに介護職員と共に参加し、通行人の方々に介護現場の実態を自分の言葉で伝えました。賛同し温かい励ましの言葉をいただけたことはとても力になりました。

今後も事務担当者間で自分たちの業務改善にも目を向け、全職種と協力して安定した経営の継続を目指したいと思います。

2025 年度取り組み

- ⑥ 福祉ウェブへ参加し、街頭署名に取り組みました。
- ⑦ シール投票を企画し、田子のまち職員の社会情勢に対する意識調査を行いました。
- ⑧ 共済活動を広く職員へ発信し、たくさんの職員に活用してもらいました。
- ⑨ 2026 年度から 10 年間の必要利益を作成しました。
- ⑩ 入居者様、ご家族、職員、来客すべてに対し明るく丁寧で親切な対応に努めました。
- ⑪ 経費削減を目指し、消耗品の管理、業者との価格交渉を積極的行いました。

【食養】

2025 年度総括

今年度はミールラウンドが習慣化し入居者様とお話をする等の関りが増え、おひとりおひとりに寄り添った、より充実した栄養ケアマネジメントができたと感じています。

また、ユニットの行事食をお手伝いさせていただき、とびきりの笑顔で召し上がっている入居者様を拝見することができ、『食のこと』の喜びや大切さを再確認しました。

厨房では、お互いが間違いのない業務ができるように工夫し、フォローし合いながら作業する様子がみえ、厨房連絡ノートの活用もしっかりできていたと思います。間違いが全く無くなったわけではありませんが、以前よりも確実に少なくなっていることを実感できた年でした。

2025 年度取り組み

- ① 昨年の 6 月から本格的にミールラウンドを開始しました。食事状況を確認するだけでなく、入居者様と直接に会話をする等のコミュニケーションを図る機会も

作りました。

- ② 入居者様の食形態変更や栄養補助食の開始等の情報は、口頭だけではなくメールも活用して発信し、他職種との共有を図りました。
- ③ 食数登録や発注の際は、栄養士が互いに確認する機会を意識的に設けました。また食材のユニット配達の前には誤配達を減らすために、担当職員が必ず2名で確認を行いました。
- ④ 食養会議では、皆が同じ工程で作業ができるように納得できるまで話し合いを重ね、作業工程の統一を図りました。
- ⑤ 月末に棚卸を行い在庫食材の把握をし、過不足なく無駄のない発注ができるように努めました。また計画的に在庫食材を献立に組み込み、フードロスを意識した業務を心がけました。

【研修】

2025 年度総括

今年度は、年間計画に基づき、予定通り研修会を開催することが出来ました。そして、法定研修だけではなく、「これを学びたい」という職員の声で、緊急時の対応や高齢者の病気について等の学習会も行うことが出来ました。新たに、災害対策計画学習も必須となり、年々やらなければならない研修が増えています。資料作成や研修時間の確保に苦慮しましたが、計画に沿って行うことを意識し、後半に慌てることなく進めることが出来たのは良かったと思います。

内部研修が多くなっている事もあり、外部研修への参加は、前年度より減ってしまいました。勤務保障するにも、ユニットの勤務優先となってしまうように思います。その中でも、年度初めに計画を立て、定期的にスキルアップ研修に参加者を出すことが出来ました。参加後は、委員会やユニット会議内で報告を行い、全体への周知に努めました。

業務上、実施しなければならない研修が多く、職員一人一人の理解度の確認までは至っていません。研修に対する意識には個人差もあり、同じ内容であっても、どれだけ伝わったか、フィードバックすることも大事だと感じています。

来年度も職員全体の知識向上を図るとともに、自主的に学ぶ意欲を高めていくために、研修方法や内容の工夫を行いたいと思います。そして、学んだことが実際のケアで生かされ、入居者様の生活がより豊かになるよう、今後も学ぶ機会を大事にしていきます。

2025 年度取り組み

- ① 年間研修計画を作成し、開催部署を明確にしました。毎月、職責会議で翌月の学習会を確認し、進捗状況を共有しました。
- ② 各委員会内やユニット会議内で開催し、多くの職員が同じ内容を学べるようにしま

した。

- ③ 報告書は開催後速やかに提出するよう声掛けし、確認しました。参照資料もデータや紙で保管できるようまとめました。

月	内容	参加人数
4月	看取りについて（看取り期のサイン、ケア・対応方法）	49名
5月	災害BCP シミュレーション	81名
	感染症蔓延防止（食中毒）学習とシミュレーション	52名
6月	高齢者虐待防止（介護現場の不適切なケア）	55名
7月	リスクマネジメント（危険予知トレーニング）	46名
	学ぼう会（意識消失）	44名
8月	身体拘束廃止	47名
	学ぼう会（心不全）	32名
9月	感染症BCP（コロナ発生時の対応）研修とシミュレーション	41名
	夜間捜索訓練	6名
10月	自然災害BCP学習会	52名
	災害対策計画学習	52名
	高齢者虐待防止（介護現場の不適切なケア）	52名
11月	感染症（インフルエンザ・ノロウイルスについて）学習とシミュレーション	35名
	夜間想定避難訓練・垂直避難訓練	31名
12月	認知症ケアについて	51名
1月	リスクマネジメント	59名
2月	口腔ケア学習	18名
	身体拘束廃止学習	50名
3月	褥瘡・栄養学習	53名
	日中想定避難訓練	100名

IV各委員会

【安全衛生委員会】

2025年度総括

今年度は、働きやすい、働き続けたいと思える職場環境づくりを目指し取り組んでしまし

たが、残念なことに退職者もあり職員体制が不安定な状態が続きました。

委員としてユニット内の環境（湿度、明暗差、危険箇所等）だけでなく、ベランダの物の整頓や施設外周の勤務上通行する場所の危険箇所や、夜間の施錠の確認なども毎月の会議内で話し合いができました。その中で福祉用具の使用状況や活用を推進し、今年度は労災 0 件となり、今後も活用を継続していけるようにしていきたいと思います。

委員会内での学習会を取り組もうとしましたが、今年度は行えなかったため、来年度行えるように、実施方法などを検討したいと思います。

2025 年度取り組み

- ① ユニット内の環境（温湿度、明暗差、危険箇所等）の把握し対応策を検討しました。
- ② 腰痛予防のための福祉用具活用を励行しました。
- ③ ストレスチェック受検率 100%を目指し促進活動を行いました。98%の受検率となりました。
- ④ 労災ゼロ（腰痛、転倒、精神衛生等）の啓蒙活動を行いました。
- ⑤ 委員会内でハラスメント防止の学習会を開催できませんでした。

【感染症蔓延防止委員会】

2025 年度総括

今年度の目標として、「感染源を持ち込まない・持ち出さない・広げない」を徹底し感染防止に努める」「学習会を開催し、職員の意識向上・感染予防に繋げる」と掲げていました。

年 2 回の勉強会を予定通り開催でき、定期的に感染症発症時のマニュアルの確認も行えたところから、大きな感染拡大が無かったのではないかと思います。今年度は動画を作成して学習するという新しい手法を取り入れたことで、分かりやすく、振り返りしやすいものだったと思います。しかし勉強会は行ったものの、ユニット内から疑問等が出るのが少なく、ユニット全体が周知できているのか、関心が薄いのではないかと感じる部分がありました。また外部研修への参加が難しかったため、来年度は外部からの情報も取り入れ、外部の講師を招いて勉強会を行うことができると、施設全体でも関心も深められるのではないかと感じました。

手洗いチェッカーは予定通り 2 回行うことはできましたが、実施がずれ込み、全部署に回るのが遅くなってしまいました。来年度は迅速に対応していきたいです。定期的に手洗いチェッカーを行うことにより、普段から意識して手洗いをする職員が増えたと感じます。手指の清潔保持につながっているため、これからも継続していきたいと思います。

2025 年度取り組み

- ① 感染症発症時のマニュアルを定期的に確認、職員への周知を行い、ユニット間での

疑問、課題や問題点がある場合は委員会で共有し対応を検討しました。

- ② 6月に食中毒・吐物処理、11月にインフルエンザ・ノロウイルスの勉強会・感染対応のシミュレーションを実施し、職員へ周知・共有しました。
- ③ 年2回手洗いチェッカーを実施し、正しい手洗いの意識付け・方法の習得と確認を行いました。

【褥瘡対策委員会】

2025 年度総括

褥瘡の早期発見と予防については、各ユニットそれぞれで入浴時や排泄時の皮膚状態の確認とエアマット使用者やお看取りの方を中心に努める事ができたと思います。また、エアマット使用基準表の見直しを行い新しく作成したことで、ユニットでも検討しやすくなりました。また、医務が相談窓口になった事で相談経路が明確になり急な相談もしやすくなりました。しかし、それ以外の時間やその他の方まで目が行き届かず、褥瘡発生リスクに気づくのが遅くなってしまったり、ユニット内で情報共有されていなかったりで、エアマット使用基準表をまだ活用しきれていないという声もありました。来年度は新しいエアマット使用基準表をしっかりと活用し、委員を中心にケアの見直しや統一を図れるようにしたいと思います。

褥瘡予防の学習会については、外部研修への参加と委員会内での研修、ユニットへの伝達をすることで知識の向上に努めることができました。また、体位交換やクッションを使用したのポジショニングなど、他の研修への参加希望も聞かれ、研修への意欲や関心も高まったと思います。来年度はより多くの職員が研修に参加ができるようにし、広く職員の知識が深まるようにしたいと思います。

2025 年度取り組み

- ① 毎月の委員会で褥瘡の方や低栄養高リスクの方の状況を報告し、情報共有をしました。ユニット内でも日頃から入居者様の皮膚・栄養状態について話し合い共有することが出来ました。
- ② エアマット使用基準表を見直しユニットでも検討しやすいものを作ることが出来ました。毎月の委員会内で報告・相談し、医務を中心に限りあるエアマットと体圧分散マットを必要な方へ使用することが出来ました。
- ③ 6月に委員が外部研修へ参加し、3月に委員会内で褥瘡の勉強会を行いました。委員会内と各ユニット内で情報共有しました。

【事故対策検討委員会】

2025 年度総括

事故対策委員会ではまず、発生した骨折などの重大事故、誤薬などの服薬事故がどのように起こったのか経緯を報告し、その対応策について意見を出し合いました。またヒヤリハットも報告し、自身のユニットでも同じような事故が起きないように情報を共有しました。他のユニットでの事故報告やヒヤリハットを共有できたのは良かったという意見があった一方で、その対応策が適切だったのかを振り返る機会があまりなかったのかと感じます。来年度はその点を改善できるように委員がユニットで主体となって話し合いを行っていきけるようにしたいと思います。

服薬マニュアルのチェックも行いましたが、下剤入れ忘れ、入れ間違いなど下剤の間違いも相変わらず多い状況でした。年に数回は誤薬などの重大事故も発生しています。服薬マニュアルを履行することは重大事故を起こさないために欠かせないことです。そのことを全職員に再度意識してもらえよう服薬マニュアルチェックを続けていきます。

リスクマネジメントの勉強会では委員が自らの言葉で伝えることで、自身のスキルアップにも繋がっていきました。

委員会を通して委員も成長し、各ユニットでの事故対策に主体となって行っていければ良いと思っています。

2025 年度取り組み

- ① 重大事故、服薬事故、ヒヤリハットを分析し、事故対策の検討と実施、評価を行いました。
- ② 各ユニットで対応に悩んでいる事例を出し、対応策を検討しました。
- ③ 誤薬撲滅委員会と連携し、服薬マニュアルのチェックを行いました。
- ④ 9月に夜間想定の搜索訓練を行いました。
- ⑤ リスクマネジメント学習会を年に2回、委員会が主催し、ユニット会議内で行いました。

【身体拘束廃止検討委員会】

2025 年度総括

年2回の身体拘束についての学習会、各ユニットでのグレーゾーンと思われる内容の話し合い、これらを繰り返し行ったにより、人権擁護、高齢者虐待、身体拘束、不適切なケアへの理解が深まったと感じています。特にグレーゾーンについては、各ユニットでの問題点であり、そのシチュエーションも想像もしやすく、自分の言葉で説明できる、より良いグループワークの方法であったと思います。これを行うことにより、ユニットへ戻り皆が自分の言葉で説明できる自信につながったのではと思っています。

次に、センサー使用者状況と必要性の報告です。以前はセンサーの不足もあり、センサー

を外せないかの検討行っていましたが、ショート再開により、センサーの種類や数が増え、その検討は行われなくなりました。良かったことと言えば、センサーの種類も増え、このような方にはこんなセンサーもあります、などのようなセンサーの種類を学ぶことができました。今後の検討事項に役立てていければと思います。

本年度、この委員会の情報共有にて、重大事故発生の防止に努めることが出来たのではないかと考えています。

2025 年度取り組み

- ① 毎月各ユニットの、センサーマット使用状況と必要性を報告しました
- ② 各ユニットから毎月分担で、グレーゾーンと思われるケアについて報告して頂き、意見交換、振り返りを行いました
- ③ 学習会を、8月と2月に実施し、職員全体で意見交換行いました
- ④ 毎月第1金曜日13時半に委員会を開催しました

【高齢者虐待防止委員会】

2025 年度総括

今年度の目標は「高齢者虐待は絶対に許さない」という施設の姿勢を明確化すること、苦情や事故は迅速な対策検討を行い、対象者へ誠意ある対応を行うというものでした。虐待防止については、身体拘束廃止を含む基礎知識を反復学習することで、全職員の意識が底上げされていることを実感しています。職員面談でも、セルフチェックで自身のケアを振り返り、ケア時にしっかり説明しているか、扉をロックしてからお部屋に入っているか等、尊厳を守ったケアを行っているか確認しました。また、身体拘束廃止検討委員会と連携し、「これってグレーゾーン」という議題で各ユニット報告を続けました。気になるケアを声に出し、皆で共有し、改善策を検討することに積み重ねで、職員の虐待に対するアンテナが広がったように思います。

虐待を防止するには、職員自身の精神衛生が良好に保たれることが必須で、そのためにも心理的安全性が担保される職場が求められます。また職員一人ひとりの考え方や価値観、正義感に偏らず、皆で目標を定め同じ方向を目指すことも重要な取り組みの一つだと感じています。次年度も高齢者虐待防止の基礎作りと働きやすい職場づくりを両輪として、更に発展した取り組みが行えるよう、多職種で話し合い、他委員会と共同し、高齢者虐待防止を推進していきたいと思っています。

2025 年度取り組み

- ① 高齢者虐待防止学習会を6月・10月に行いました。
- ② 認知症学習会を12月に行い、日々のケアの振り返りとケアの質向上につなげまし

た。

- ③ 田子のまちスローガン「ありがとうを言葉で伝えよう」を繰り返し伝えました。
- ④ 面談時に「セルフチェック」で、自身のケアについて振り返りを行いました。
- ⑤ 毎月、職責会議後に委員会を行い、苦情報告・事故報告・身体拘束廃止検討委員会報告を共有しました。

【暮らしを考える委員会】

2025 年度総括

職員間で認知度の低い委員会ということもあり、昨年度委員会の名称を「社会保障委員会」から「暮らしを考える委員会」に変更しました。今年度は2年目となり、聞くだけでなく、自分たちで考える、発信できる委員会に育ってきたと実感しています。委員会のメンバーがそれぞれの目線で学習会を企画し、自分たちの暮らしが良くなる為に何をすべきか活発な意見交換できました。委員会への参加度があがったことで、ひとりひとりが委員会の意味をしっかりと理解して参加していたと思います。今年度委員会発信の企画「財政活動」「介護署名」「社会情勢に目を向けるためのシール投票」「選挙への呼びかけ」に取り組むときも積極的に役割を果たせたと思います。特に全員で考えた財政活動は数年ぶりの再開となりましたが、合計 5 万円を超えるカンパ金を集めることができました。福祉ウェブでは街頭に立ち、自分の声で通行人の方々に訴えました。たくさんの励ましの言葉を直接いただいたことはとても良い経験になったと思います。

今後は身近な話題からもう少し先に進み、私たち福祉会がなぜ平和や憲法を大切に考え、このような委員会が存在するのか、そのような学習も取り入れ、全職員へ発信できる委員会にしていきたいと思っています。

2025 年度取り組み

- ① 委員会メンバー全員が生活や暮らしにかかわる問題をテーマに学習を企画し、活発な意見交換を行いました。
- ② 独自の財政活動で 53,734 円のカンパ金を募りました。
- ③ 介護署名 340 筆を集めました。
- ④ 11 月 9 日福祉ウェブに委員から 6 名、その他 2 名 合計 8 名で参加し、介護職員の処遇改善や介護保険の見直しを求め街頭署名に取り組みました。

【2025 年度事故報告】

	転倒	転落・滑落	誤嚥	誤薬・誤配	弱水	火傷	異食・誤飲	暴力	感染症	褥瘡	無断外出	介護中の骨折・あざ・外傷	原因不明の骨折・あざ・外傷	破損・紛失	その他	計
0～3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	6
3～6	3	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	8
6～9	7	3	0	5	0	0	0	0	0	2	0	1	22	1	2	43
9～12	8	3	0	3	0	0	3	0	0	1	0	2	26	1	0	47
12～15	7	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	22	1	1	41
15～18	4	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	11	0	0	21
18～21	3	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	9	1	0	18
21～24	4	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	10
計	39	20	0	14	0	0	4	0	0	5	0	7	98	4	3	194

【2025 年度苦情報告】

2 件の報告があり対応しております。

*ショートステイ

転倒事故の状況報告が不十分、また事故後の対応も誠意がみられないとご家族よりご指摘いただきました。

→保険対応の為、状況確認に時間がかかり、施設からの連絡が遅くなってしまったことで、ご家族の不信感につながっていました。

事故後は、早急に原因究明を行い、正しい情報をご家族に説明し、対策についてもしっかりと伝えることを職員間で周知しました。

今後同じことが起こらないよう、法人全体で情報共有して、対応していきます。

*ショートステイ

就寝時お薬を持ってきた職員から「薬飲んでさっさと寝てください」と言われ、その言葉に傷ついた、と利用者様からお話いただきました。

→対応職員に確認し、そのような声掛けはしていないとのことでしたが、態度や雰囲気も含め、そのように感じさせてしまった可能性があると思われます。

職員には、相手はどう感じるかを考え、自分の言動に責任を持つよう指導しております。また、職員全員にも自身の言動について振り返り、自分のケアについて考えてもらいました。

貴重なご意見をいただきありがとうございます。いただいたご意見を真摯に受け止め、今後のサービス向上と再発防止に努めてまいります。今後とも、お気づきの点がありましたら、遠慮なくお知らせください。